

SSKA 東腎協

93年10月25日

No. 100

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）
事務局・〒171 豊島区

郵便振替口座

FAX

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可
一S九三A増刊通巻二七号（毎月六回）
一九九三年十一月二日発行

- ◎改悪される保険制度..... 3
- ◎特集1 東腎協推進の旅行案内..... 4
- ◎体験的5分間クッキング⑥..... 7
- ◎なかまのたより..... 8

●おもな記事●

- ◎会員さん訪問⑤ 高藤アツ子さん..... 12
- ◎スタッフ訪問⑦ 金子智..... 16
- ◎都立大久保病院が開院..... 18
- ◎特集2 透析生活と地域活動..... 20



秋の収穫・八王子（写真・本間正良）

リレー・エッセイ

一人二役、苦勞の甲斐が

森山病院友の会 森田 廣明



昭和七（一九三二）年、江戸川区葛西で半農半漁の家に男ばかり四人兄弟の三男に生れ育ちました。昭和三十年交通局に入局、三十二年結婚、一男一女の四人家族で平穩な家庭、妻は編み物教室を開いていました。

四十四年より慢性腎炎となり五十二年身体の異状を感じ、診断の結果、人工透析の為シャントを作ると説明されましたが、予備知識

のない私には理解出来ず、一時間位说得され透析室に連れて行かれ、此の様な治療を受けなければ延命出来ないとい初めて知り、大変な病氣だ、家庭は、子供達の将来は、と目の前は真っ暗になりました。

即、二月四日入院、シャントを作りました。食事療法でがんばりましたが、二年後の五十五年透析導入を宣告されました。その年に長女は大学受験でした。今迄以上に頑張らねばと半ば開きながら、五月退院し、仕事として軽勤務となり、交通局五反田管理所労働組合の仲間を支えられながら平穩な家庭生活を再び送り寄せた日々でした。しかし、こんな妻が身体の異常を訴え病院の診断で大腸癌の宣告をうけ、三カ月か半年の生

命と言われ血の気が引いていくのが自分でもわかりました。妻をだまし潰瘍で手術をし腸を切りつなぎ合えば治ると説得しました。今度は長男の大学受験です。巡り合わせの悪いことなれど碎けてはと自分を震いたたせ、親、兄弟、子供達にはあかさず、平常を装い妻は一時退院、自宅療養となりました。

私は職場にいても心配で電話を入れ、声力があると「ホッ」とする日々でした。編物好きの妻が教室を閉めようと言いだしたとき、「キタナ」と私が判断したとたんに、容態が悪くなり入院。奇跡的に二年四カ月頑張ってきたが、今度は覚悟をと言われ、子供、兄弟に看取られて五十二歳の四月二十四日に他界しました。この日が結婚記念日とは…。

一周忌をすませ私は現在の森山病院に転院しました。救われたのは透析スタッフの明るさと森山先生の患者への理解があることでした。間もなく娘に結婚の相手を紹介され、一度は試練の思いと覚悟はしていたものの、いざとなると複雑な胸中でした。娘の幸せを願う父親として、六十一年十月に結婚させました。母親がいたらと娘の気持ちを思うと胸中に手を握せる娘でした。

私は三人の親となりました。今は患者会活動に身が入り、東腎協の指導を受け会員拡大、仲間との交流も深まり、三十六年在職の交通局を昨年、停年退職しました。妻が明るく唄っていた「この坂を越えたなら幸せが待っている」人生だれでも苦勞と楽はあり、苦を苦と思わず前を見て歩くと、やがて陽が照る、ここまで来たなどの思いです。

昨年、長男が結婚、二人とも明るく生活充実に努力しているし、私の体を心配して、食事等も中一日、中二日と献立に気をつかう姿に、娘に当たって本当に良かったと思います。妻を亡くして八年、一人二役、苦勞した甲斐があったとつくづく思っています。

改悪される保険制度

11月15日に改訂反対の大行動

緊急に反対の署名をお願いしましたので、会員の皆様はご承知のことでしょうが、いかにこの制度の改訂が私たちに与える改悪であるのか以下、述べてみます。

保険制度では入院給食、室料、薬剤・治療材料の保険給付の除外と診療報酬では、血液透析の定額制の導入があるとも聞いています。わかりやすいといえば、私たちの闘病のための食事に代金を払いたくない。大部屋でも部屋代を取りますよ。薬やガーゼなどなど、今までのように保険で使えなくなるから代金をいただきますよということ。

最後の血液透析の定額制というのは透析患者にかかる医療費を一人につき月、いくらか決めてしま

い、それ以上はどんな治療をしても保険からは支払いませんから、患者から代金をもらうか、その決められた医療費の中でできる透析をしなさいというものです。利潤を上げるためにはその枠の中でやるのですから、材料費をかけないようにダイヤライザーを安いものに変えたりする病院が出てくるかもしれません。病院も経営体ですから保険からお金が来ない、患者から取る訳にはいかないとなれば、生き残るためには必死になるでしょうから、質の下がるのは目につぶてしまうでしょう。私たちにとっても透析病院が倒産してなくなるより、いいとあきらめざるを得ない状況に進んでいってしまおうでしょう。

これで改悪と言っても反対する理由がおわかりいただけたと思います。では、どのように運動したらよいか、やはり、そうなるに困る人間がたくさんいるんだということとを政府の人々に知ってもらうことが一番ではないでしょうか。そのために毎年の署名の前に、緊急に署名を募金は抜きに各病院幹事を通じて会員の皆様にご協力をお願いしたわけです。

十月三日にはJPCが全国いっせいに街頭署名に取組みました。この問題は一透析患者だけのことでなく、全国民が病気になるたら直面する困難です。運動のゆくえに注目して下さい。

(木村妙子)

JPCの患者・家族大行動に参加しましょう

○日時 11月15日(月)
午前10時～15時

○会場 都市センター第2講堂
千代田区平河町2-4-1

(地下鉄有楽町線「麹町」下車)
(地下鉄半蔵門線「永田町」下車)

○要請行動 集会後、厚生省に陳情行進

☆集会のメインスローガン

●入院給食、室料、薬剤・治療材料の保険給付除外をやめさせよう。

●無年金者をなくし、暮らせる年金制度の改善をめざそう。
●難病対策の拡充をめざそう。
●社会保障制度の拡充をめざそう。

※参加希望者は東腎協事務局へ

特集1

東腎協推選の旅行案内

東腎協では会員の親睦、情報交換などをはかるために会員交流会を開いています。会員交流会を始めたころは主に室内での話し合いが中心でしたが、一九八七（昭和六十二）年に野外での交流会が御嶽で開催されました。東腎協会員交流会は会員拡大・交流委員会や常任幹事会で良く吟味されたもので、いつも好評を博しています。今回は東腎協が行ってきた交流会を紹介し、患者同志で交流の輪が広がる取組みとして企画しました。

◎日帰り旅行（都内）

①みたけ散策

一九八七年（昭和六十二年）に行う。東腎協が行ったのをきっかけにいまや患者会などの旅行の定盤として親しまれています。

☆コース

御嶽駅→玉堂美術館→みたけ峡谷→沢の井（バーベキューまたは季節料理）→澤乃井酒造見学→沢の井駅

団体だけでなく個人でも楽しめます。特に春の桜の季節、秋の紅葉はすばらしい。健脚向きには逆



澤乃井園のバーベキューは楽しい

コースを歩くのもよし。澤乃井酒造には学習室もあります。見学の帰りに酒のみやけも。

☆交通

新宿より中央線御嶽駅下車
玉堂美術館は障害者割引があります。



広々とした大地でボール遊びも

②花と水と緑の国営昭和記念公園
一九九〇年（平成二年）六月、東腎協会員交流会は、立川、昭島両市にまたがる国営昭和記念公園で、行われました。この昭和記念公園は、昭和天皇在位六十年を記念して、立川基地跡地に造られたものです。春は桜、夏は菖蒲、ひまわり、秋にはコスモス、冬は水仙など四季折々、目を楽しませてくれる草花が咲きみだれる花園が、園内のあちこちにありま

す。公園内は水も豊かで、武蔵野の小川を想い出させる人工のせせらぎや、ポイントも楽しめる水鳥の池、

そして、トンボが自然に繁殖できるトンボの湿地などがあり、文字通り花と水と緑の自然豊かなオアシスです。

又、自然芝を利用した十八ホールのパターゴルフや、ベタンク・ディスクゴルフなどニユースポーツのエリア、夏は、レインボーブルーやパーベキュー広場、冬はスケートリンクと一年中老若男女が楽しめます。尚現在公園北側で、多摩の博覧会V O I C E 93が開かれていて一層楽しませてくれます。



寅さんのふるさと帝釈天、その日は雨だった

交通は、青梅線西立川駅下車が、便利です。又身障手帳持参の方は入園無料となっています。

③寅さんのふるさと葛飾柴又

第五回、一九九一年（平成三年）に行いました。ご存知寅さんのふるさと、老若男女だれでも楽しめます。「つれて逃げてよ」の唄で一躍脚光をあびた矢切りの渡しは、柴又側は運動公園、対岸の松戸側は、田園風景が広がり、江戸川堤の眺めは心やすまり、辛い透析も忘れてしまいます。

☆コース

柴又駅→帝釈天→柴又側→矢切りの渡し→松戸→柴又→川基

東腎協で利用した川基の昼食は「こいこく」、「こいのあらい」、「こいの塩焼」、「うな重」と豪華なもの。

交流会は①御獄②昭和記念公園③葛飾柴又のほか第二回が多摩湖、第三回が神代植物園で開かれています。神代植物園では全員（二百名）で写真撮影を行ったり、東腎協ボスター用の写真を撮りました。昨年は二十周年ということで大ゲーム大会を行いました。

④浜離宮と隅田川水上バス

一九八九年（平成元年）九月の

南部ブロック交流会は、浜離宮の散策と、水上バスで隅田川の橋めぐりをしました。浜離宮内の池は、東京湾の海水を入れたものです。

宮内庁の鴨狩にも使われています。海岸に近いだけに、園内は高低差が少なく、松の緑と玉砂利を踏み足音だけが聞こえる、都心とは思えない静かな庭園です。園内は一時間くらいで見られます。

浜離宮の園内からは、日の出桟橋と浅草方面に水上バスが出ています。現在の隅田川は、以前より水もきれいになって臭いも少なくなっています。浅草に向って隅田川を上ると、たくさん橋があります。勝どき橋、佃大橋、永代橋と橋の形状もいろいろです。浜離宮から浅草まで約四十分で十三の橋を通ります。浅草の航着場からは、仲見世や浅草寺が間近かです。都心の変化にとんだ手軽なコースです。

☆交通

浜離宮

JR新橋駅から都バスで浜離宮下車徒歩三分

浅草 地下鉄銀座線 東武線

浜離宮は身障者手帳で入園無料となります。水上バスは身障者手帳で、半額引きとなります。

東京都心身障害者 休養ホーム事業の利用を

東京都では、心身障害者（児）の方が家族や仲間とくつろげる保養施設を指定し、その施設を利用した方の宿泊利用料の一部を助成する心身障害者休養ホーム事業を行っています。

②障害者（児）に同行する付添いの方。
ただし障害者（児）一人につき一人。

☆助成額 一泊につき次の額を限度とします。

①大人 五二六〇円
②子供（小学生以下） 四七四〇円

☆助成回数 障害者及び付添いの方、共に一人あたり年間（四月一日から翌年

の交付を受けている方。

最初の予定コースは
出発（東京駅）八時―首都高速、常磐道（途中SA休憩）―土浦北IC―筑波スカイライン―筑波山神社―宮脇―筑波山頂―宮脇―筑波グランドホテル（昼食）―筑波スカイライン―千代田町果樹園（栗ひろい）―帰着十七時

下見の重要性を再認識

十月二十一日（木）に行われる東難連の旅行の下見を、一カ月前の同じ木曜日の九月十六日に行いました。当日の出発時間と同じ八時に東京駅丸の内口、丸ビル前に集合しました。行き先筑波山、私の車一台に東難協の小林さん、リウマチ友の会の佐藤さん、東難協からは運転手が一人では不安なので谷地さんをお願いし、参加してもら

ました。

下見をしてみると筑波山神社か

三月三十一日まで）三泊まで。（ただし、付添いの方は障害者本人に助成がある場合のみ）

☆助成の方法
東京都が後日、助成額を施設に支払います。なお、利用料金が助成額を越えている場合は、差額を直接施設に支払っていただくこととなります。

③申込みは、必ず日本チャリティ協会をとおしておこなってください。（各施設への直接予約は出来ません。）結果を同協会より連絡致します。

☆利用の申込み受付先
日本チャリティ協会
電話 〇三（三三三三）五九四二
FAX 〇三（三三三三）七九六四

☆利用施設例
一、勝浦簡易保険保養センター
一、青梅簡易保険保養センター
三、伊豆大島簡易保険保養センター
四、塩原簡易保険保養センター
五、草津簡易保険保養センター
六、強羅ホテル
など二十七カ所

体験的5分間クッキング

⑥

★挽き肉炒めをベースにして

合い挽き肉二〇〇グラムと刻んだ玉葱一個分を炒め、塩こしょうで味付けしたものを作っておきますと、これをベースにして簡単においしものが作られます。

☆オムレツ☆

卵二個をボールに割りほぐし、挽き肉炒めを加えて混ぜ合わせ、フライパンにバターとサラダ油を半々にして焼きます。

挽き肉が多いと見た目は少し落ちますが味は良いようです。

☆チャーハン☆

中華鍋に油を熱して溶き卵を手早く炒め、挽き肉炒めと御飯一杯を加えてさらに炒め、醤油少々を振り入れて味を調します。牡蠣ソースがあれば少し加えただけで本格的（に近い）味になります。

☆オーブンサンド☆

バターを塗った食パンに挽き肉炒めをたっぷり乗せて、ケチャップをかけ、スライス・チーズをかぶせてトースターで焼きます。ケチャップの代わりに市販のピ

ザ・ソースを使えば手軽にピザの味が楽しめます。

☆炒めコロッケ☆

市販のインスタント・マッシュポテトを使ってマッシュポテトを作り、挽き肉炒めを混ぜてコロッケの形にまとめ、フライパンに油を引いて焼き目をつけます。

時間があるときは、じやがいもをゆでてマッシュポテトを作り、小麦粉、溶き卵、パン粉をつけて油で揚げればいっそうおいしくなります。

（田無・小脇）

栄養士から一言

ここがポイント

◇オムレツ◇

卵・バター、肉は良質の蛋白質ですが、不飽和脂肪酸に欠けるので、サラダ油を加えることによりそれがカバーできます。調和のとれた料理となりましょう。

◇チャーハン◇

肉に玉葱を加えることにより肉のくさがやわらぎ、その上醤油の香ばしい香りが加わるので、案



カット・山中知子

養上も風味の上でも良い料理と言えましょう。

◇オーブンサンド◇

パンに火を加えることの良さはパンの消化が良くなるということです。（※澱粉に帰る為）そしてバターの味がパンにしみ込みます。バターの使い方、澱粉の特性を生かした便利な料理と言えましょう。

◇炒めコロッケ◇

マッシュポテトに挽き肉を加えることにより唾液の出にくい人でも食べやすくなるので、よい方法と思います。焼き目をつけることにより見た目のおいしさも増し、短時間料理としては心のこもった料理と言えましょう。

（八木由紀子）

料理アイデア募集

このコーナーでは会員からの料理のアイデアを募集しています。二品・三品、六〇〇字でお願いします。応募された方にはささやかな景品をお送りします。

表紙の言葉

大都会東京でもたくさんの野菜や果物が

大都会の東京にも、たくさんの野菜や果物が作られています。練馬大根のように、都市化の波に押されて、姿を消した作物もありますが、全国一の生産高の「東京ウド」正月料理に欠くことのできない、江戸川名産の小松菜、稲城市の多摩川梨、秋川市のトウモロコシと多種多様です。秋も深くなつて霜の降りる頃には里芋もおいしくなります。

散歩のついでに野菜の無人販売所をみかけたらのぞいてみませんか。新鮮な野菜や果物が見つかることでしょう。

（本間）

のたまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの断片記、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽に書いて事務局へ送って下さい

東腎協へ来て7年

婦泉病院ニレ友の会

中田 青玖

東腎協との出会い

私が東腎協にボランティアとしてお手伝いして、丸七年に成り、そのうち六年、慣れない会計を中心に手伝ってきました。当初の事務所はビルとは名ばかりの間口一間半、奥行三間程と細長で、お勝手など含めた、二階の部屋で、机やワープロなどで、部屋の中をまともに歩けない、狭い質素な所でした。これも経費を押さえるためという事が後でわかった次第です。

森事務局長、草間次長と、今は亡き石川みささん（常任幹事）の三人が、変則勤務で会務をこなして居り、何から何までと仕事の種類の多いのを、手際よくこなして居るのに、唯、頭の下がる思いでした。事務局の内部を知る事によって、東腎協から送られてくる郵便物、特に会報などが、私達の手もとに届くまで、事

務局の大変なご苦労がある事を知ることが出来ました。従って会計の私が落ち着いて仕事の出来る場所がない状態でした。

会員拡大で台所は安泰

二年前、あまりに狭いので、事務所の移転を考慮し家賃のアップを覚悟の上、現在の事務所に移り、以前よりわずかに広くなり、使い易くなりました。会計処理は毎月末ですが、毎月開かれる常任幹事会に資料として、決算書を提出し報告する事になって居り、役員の皆さんのご意見を頂く事に成っています。

平成三年の予算作りから、従来の考え方では予算が組め無くなり、事業の縮小をし、一方で会員拡大（一〇％増）の為、入会のしおりを作るなどして、新規の会員増による収入確保に、会員の皆さんのご協力を得て、収支のバランスを計りましたが、思わぬ不手際などがあり、考えたほどの成果が得られなかったのが残念でした。昨年、今年と予

算の作成でも、前年以上に緊縮と会員拡大に積極的に取組む方針を、幹事会に再度協力をお願いしてきました。会員の増加如何によつては、近い将来、東腎協の会費について、幹事会に計る事になるのではないかとも思っています。

私事でですが、会計を降りたとなん、体調を崩し六月からボランティアとして手伝うことを中止しています。早く元気になって、また多くの皆さんにお会い出来るのを愉しみに静養します。

思いがいがい？

あけぼの友の会

東野 榮夫

現代はグルメ全盛の時代で、テレビを代表とする各メディアに料理特集、又、あちらこちらの街角に美味しいお店が競い合い、ほんとに今が花盛りだ。その中の一つに

おいしいパン作りが必ず出て来るが、決まって小学生時代の懐かしい？ある一つの事を思い浮かべる。

私が小学三年から五年のと

き、毎日給食に今は懐かしいおいしそうなコッペパンが、主食として出て来る。当時、コッペパンはボリュウムもあり、おいしい？パンで、クラスメイトみんなは、残さずきれいに食べていた。私を除いて！。私のこのコッペパンのせいで、楽しいはずの給食時間が大嫌いだった。理由は、簡単、私が勝手に「思いがいがい？」したせいである。給食時間になるとコッペパンが配られ、みんな一斉に食べ始める。私はまずコッペパンの皮だけを割きながら食べる。それからが問題である。コッペパンを真ん中から二つに割る。パンを焼くと大きく膨れるため必ず穴が空くのが普通である。私はパンを割ったとき、この穴があればゴッペパンは給食袋に入られ、帰り道捨てられるのである。

コッペパンを食べるとき、この穴がないように何度も思い折った。その度につかりするのである。当たり前である。穴の無いコッペパンなん



仲間と語り合う東野氏(右)

か無いのである。穴を何と「思
いちがいが？」したのか、今で
もはつきり覚えていて。それ
は「ナメクジがコッペパンを
食べた」と本当に思ったのであ
る。その後、コッペパンを残
すのを先生に見つかり親に何
回も説明されるまで！。今は
パンは穴があつてもおいしく
毎日たべています。おいしい
！悔しい！懐かしい！思いで
である。

この「思いが強い」は本当
に恐ろしく怖いものであり、
自分ではなかなか解らないの
である。私達は病院にあくま
でも治療に通つていて、透析
人生を送っているのだが、こ
の二十年の間に透析療法が飛
躍的に改良され亡くなる人も
少なくなりました。そのお陰

でみんな透析年数が長くなり
ましたが、反面、病院にあま
り慣れて来ると概して私を含
め、つい病院やスタッフに甘
えたくなるのである。

私達は病院に治療に通つて
いて、そこには常識が無けれ
ばならない。又一本の当た
り前の線が引かれなければな
らないと思つている。医師、
看護婦、テクニシャン、ヘル
パーや病院の他のスタッフを、
尊敬し敬ななければならな
い。敬う事により患者と医師、
病院に、強い信頼関係が生ま
れて来る。この信頼関係は透
析治療にも非常に大切な。当
たり前の事だが、これはなか
な難しいことである。

私達は普段普通に生活して
いてつい忘れやすいが、病院
で透析しなければ命は危い。
これは現実で非常に厳しい環
境に有ります。私達はあくま
でも患者なのです。この事を
少しでも考えれば、「思いが
強い」は無くなり、思いが
いによる問題は必然と無くな
ると思います。透析療法はま
だまだ改良され発展します。

病院を深く信頼し、そこまで
来ている夢のような透析療法
を、みんなであつたと思ひ
ます。

(四十六歳 透析十七年)

青年部・三浦半島

油壺マリンパーク

バス旅行の道中記

松和患者会西新宿支部

糸賀久夫

朝、天気は、曇り空、青年
部の男女、三十三名(今、青
春まつただ中の人あり、自分
は今でも青春していると思つ
ている人ありと、思いはさま
ざま)新宿西口を出発。
バスの中は、顔馴じみの人



ガイドさんは純粋な青年部

初めて顔を合せる人などいろ
いろ。始めは少し物静かだし
たが、ビンゴゲーム等で雰囲
気がなごみ賑やかになってき
た。

首都高速を走り、デイトス
ボットの「ベイブリッジ」の
見える「大黒ふ頭」で休憩。
ベイブリッジをバックにみん
なで記念写真。

道路も順調に流れ、予定よ
り一時間もはやく目的地、三
浦半島に到着。天気も、時よ
り太陽が顔を出すまで回復し
て気持ちいい。海岸に下りて、
散歩を楽しむ。夏の終り、海
の好きな私は、無性に泳ぎた
くなった。隣りにいた女性か
ら「糸賀さん、泳いでみたら
？」と言われたが、泳ぎたい
のをぐぐぐとこらえた。沖に
は、何艘ものヨットがのんび
り波にただぶつていて。海岸
近くの森では、短かった夏
を惜しむように蝉がしきりに
鳴いていた。

昼食には、少しはやいが、
十一時より、観潮荘ホテル大
広間で宴会がはじまった。自
己紹介のあと、待つてました

とばかりにカラオケのど自
慢。司会は、私の職場の友人
で、飛び入り参加の久保さ
ん。名調子で進行。

最後は、クイズ「それは、
私です」の本物(回答者)を
あてる問題が出され、青年部
の村田さんが「もと営団地下
鉄の駅員さん」と聞いてみん
なを驚かせた。

それから、マリンパークで
「イルカショー」を見学。演
出効果のため周りが暗くな
り、酒もきいてきていつの間
にか、ウトウトと睡魔におそ
われてしまった。でもすぐ目
覚めあとは、しっかり見まし
たヨ。

帰路のバスの中で「競馬ゲ
ーム」、大きなサイコロが通
路をコロコロまわつて大騒ぎ。
途中、渋滞にまきこまれた。
原因はと車窓から海岸をみて
驚ろいた。お祭りである。そ
れも、威勢のいい若者が海
の中でお御輿を激しくぶつ
つ合つていた。そして、景気づ
けに、火花が打ち上げられ大
変な盛り上がりである。――
やがて気がつくとも陽も沈み、

都心のネオンが彩やかで、きれいな虹色。最近、オープンしたばかりの「レインボーブリッジ」を近くに眺めながら、

関東ブロック青年交流会

今後の青年部に期待
上野のぼす会 村田 茂

私はこの会に参加するのは、四回目です。私一人が何

度も参加して居るので東腎協事務局の森事務局長や草間事務次長に私で良しうのしようにかと聞いたら「青年部長が行ってこれなくては困りますよ」と言われ、行く事にしました。昨年から青年部長と言う大役を任せられ、私なりに努力し、悩みました。幸いにも今年もこの交流会に参加出来皆様に感謝しています。

今回は、第七回で千葉県鴨川「潮風荘」で八月二日、二九日、二日間行なわれ私達吉本、久保、村田は、東京駅十一時三十分、に外房線の改札口で待合せた。私と吉本の常任幹事は、総会や幹事会で顔を合せて居たので面識があっ

楽しかった今日、一日を振り返った。——実は私も今でも青春しているつもりの人である——。

たのですが久保さんとは、一度も逢った事がないので東腎協機関誌を三人が手に持って行く事にしたら時間にびたり逢う事が出来安心しました。

十二時発「特急わかしお一号」に乗り二時間余り安房鴨川に到着午後二時二十分頃宿の「潮風荘」に着く、四時頃から七時頃迄「学習会」と「分科会」の交流会が有り学習会では、一ノ清関東ブロック長の講演「会活動について」のお話が「時間程有りその後分科会で①「会活動へ青年部としてのかわり方」②「就職と結婚」について話し合いが行なわれ、活発な意見が出され、これからの青年部に期待が持てるような気がしました。翌日朝九時頃から海辺で「スイカ割りゲーム」を行い、和やかなうちに無事交流会が終了しました。最後に

千葉県腎協の皆様ありがとうございました。

10数年ぶりの旅行

大山腎友会 吉本 義行

今回の旅行は、私にとりましては十数年振りの事です。この大変楽しく思いました。このような機会を与えて下さいました事をとてもうれしく思います。

さてその内容についてですが、私なりに、この交流会は、「会の存続の為に将来を担う候補生の育成とそのつながりを維持する為のもの」と解釈しております。しかし、この短いスケジュールの中で多くを学ぶ事は難しいと考えま



Vサインが村田部長、埼玉と一緒に

す。したがってこの交流会の大部分を、リクレーションなどと思えます。座談会の様な堅苦しい席ですと、自由な意見交換も出来ず、又発言出来ない人も出て参ります。フリーの時間の中で交わされる日常会話の中でも、次第に病気の事や会活動の事などが話題となつてきますので、その方が有効ではないかと考えます。

次回もより充実した交流会が行われます事を期待して、こゝでしめくくらせて頂きます。

青年部の活性化を
松和患者会西新宿支部

私が、この「交流会」へ参加することになったのは、病院患者会の仕事で東腎協事務局へ行った時でした。私は、導入が平成四年五月で、まだまだ透析や患者会についてよくわからないのですが、何かお手伝いできないかと思つて、本年から病院の幹事を引

き受けました。その初仕事で初めて東腎協事務局を訪れた時、草間氏から誘われました。私のような未熟者が東腎協の代表とおそれおおいこと

思いましたが、このような活動が身体にも精神的にも健康を保つことにつながる、他県の人との交流も又、これからの生活に役立つと思い引き受けました。

千葉に行くときに青年部の活動について村田部長から聞きました。驚いたことは、青年部活動があまり活発でないことです。しっかりとした組織はなく個人的な集団のようなのだと思いました。そこで、交流会では、他県ではどのような取り組みをしているのかをみてみたいと思ひました。

青年部の活動の分科会では「なやみ」などを開催いたしました。その中で、活発な青年部の話しでは、かなり「遊び」の活動を多くしているように思ひました。ただそれだけでは限界があるような話をしていました。そして印象的だっ

たのは、患者の意識の低さへの「なやみ」でした。現在の患者を取りまく環境の良さにあぐらをかいて、患者組織への参加、運動への参加をためらうというのです。そのことは、初めて病院幹事をしてみても私を感じることではありませんが、それだけにより一層の活動を、特に青年部活動の活性化を行なわなければなりません。

今回交流会に参加して、こういった青年部活動を含めた私が感じた患者会運動のメリットを以下にあげて、会員のみなさまへの運動への参加をお願いします。

一、様々な人の透析の経験を聴くことによって養生の参考になる。

二、様々な、職業、年齢の人とも打ちになれる。

三、仲間が共同作業することによって、心の安定が得られる。

四、透析の正しい知識を身につけられ、偏見に対処できる。

五、先輩の方々の努力を拝

聴して、患者が団結し、社会的、経済的ハンディを克服できる。

六、患者の団結のみが、いわれなき、国の厚生政策に対抗できる。

最後に、たまたま、通院している病院の同じグループに東腎協常任幹事の糸賀氏がいて私を、このような運動に誘ってくれたことや、たまたま、東腎協事務局で、すばらしい交流会に誘っていただきまし

た草間事務局次長に感謝いたします。

上期の活動を総括

第31回幹事会

九月二十二日に東京都障害者福祉会館で、五十八名が参加し第三十一回幹事会が開催されました。

開会の挨拶、会長の挨拶とつづき、事務局長より上期の活動報告がありました。

報告の中で、今年度は専門委員会に、新たに「事務局財政検討委員会」を組織し、東腎協の望ましい活動について財政を含め検討をしていると

いう報告がありました。また、会計からは上期の決算報告がありました。

討議事項では、腎移植推進キャンペーンについての提案と、国会請願署名募金についての提案があり、どちらも積極的に取り組むことを確認しました。

会員拡大委員会からは、現在の組織率についての説明があり、会員拡大の協力の呼び掛けがありました。

全腎協から呼びかけのあった鹿児島をはじめとする災害義捐金については、全面的に協力することを確認しました。

全腎協担当副会長からは、全腎協法人化について、現在の状況の説明があり、討議事項については一括承認されました。

午後は、学習会を行ない診療報酬の「改正」を目前に、前半は医療情勢について泉山会長の講演があり、後半はブ

ロックごとに別れ意見交換が行われました。

(金子)

健康フェスティバル

東京都健康推進財団による93健康フェスティバルが九月十八・十九日、都庁・都民広場で開催された。東腎協も健康づくりふれあいプラザの中にパネール、資料などを陳列して参加した。

広場の舞台ではNHKテレビ番組「おかあさんといっしょ」の神崎ゆう子、坂口おきむが、大声で子供を相手にジャンケンポンをしている。A

テントでは赤ちゃんと関する何でも相談、Cテントでは栄養カウンセリングや健康年齢チェック、心の健康コーナーが設けられている。

Dコーナーはヤングプラザで、ストリート・バスケットの勝ちめき試合が行われ、F

テントでは歯の健康について、歯医者の先生が正しい歯の磨き方について丁寧に教えていた。

健康と云うのは食べることから体をきたえること、田舎では近所に行くにも買物に出かけるのも車、また都会では

すぐ上の階に行くのもエレベーターや、エスカレーターを利用する。体力の衰えが身に

しみる中年世代、日頃からの運動不足を反省する。

適度の運動は健康づくりに欠かせないのは事実だが、やりすぎればかえって健康にとって有害になっていく。まして体力年齢が意外に若かったからと、自己の体力を過信しての無茶は危険である。

我が国のスポーツ障害の主な因が実は「オーバー・ユース」つまり練習のし過ぎである

と、スポーツ医学専門医の松岡彰山口労災病院・整形外科部長は指摘している。

最後に忘れてならないのが食事面での配慮で、バランスのとれた毎日の食生活なしには健康体ではないことを自覚して、「自分の健康は自分で守る」と心に明記すること。

東京都衛生局が都民ひとり一人の健康を願うのも、ここ

日本が平和であるからであらうし、健康でないいきいきと暮らすことは私たちみんなの願いだからである。

(北爪)

会員さん

訪問

第51回

高藤アツ子さん

太田先生に紹介されて

発病はいつ頃ですか。

高藤 昭和三十六年、高校を出て、道路公団に就職が決まり、長野県小諸から上京して来ました。環境が激変したせいなのでしょう。

高藤アツ子さん（五十歳・阿佐谷・すずき診療所）、ギターを弾き語りする端麗な姿を思い浮かべる方もあるでしょう。透析二十二年目になるというのに、明るく、爽やかで、長い苦しい生活を送ってきた影はみじんも感じさせません。「本人は「もう体の中はガタガタなんですよ」とおっしゃるが、彼女を支えて来た彼女自身の強い意思と、周囲の愛情がその言葉の一言一言ににじみでていました。

か、体重が一度に十ポンドも増えてしまい、風邪が長引くので、近くの医院で診てもらおうと、尿が真っ白で、即座に東京女子医大へ入院ということになりました。慢性腎炎、小学校、あるいは中学のころ発病していたのではないかとということでした。十九歳で腎臓病との戦いが始まりました。

透析にはいつから入りましたか。

高藤 一年間、入院生活が続き、退院しても動め先は解雇、途方に暮れていましたが、ちょうどそのころ私の姉（現在五十八歳）に長子が誕生し、勤めを持っていた姉の子育てをすることになりました。

二年後、次の子供が生まれ、姉の子供たちを育てているうちに高校時代から好きだった音楽で身を立てようと思い、昼間は二人の子育て、夜は先生についてギターを

習いました。

二十二歳の時、女性六人のラテンバンド「高藤志乃とハーニサンズ」を編成し、クラブとかダンスパーティー等で演奏しました。見栄えがするように全員一六〇センチ以上、超ミニのビカビカ女性ばかりで人気を集めました。

昭和四十六年、二十九歳の時、突然血尿が出ました。すぐ病院に運び込まれましたが、先生が仰天するほど腎炎は進行し、昏睡一歩手前でした。

すぐ透析導入の必要があるというところで、透析機械が一台空いていた赤羽の病院に運ばれ、外シャトルで透析が始まりました。手術は六時間かかりました。

ところが二カ月半の間に、外シャトルがつぶれては作り、作ってはつぶれるということを四回も繰り返し、体重は十ポンドも減り、生命は、もって半年と言われました。

人生には大きな転機が必ずあるのですね。兄（現在五十六歳）の知人の関係で東京女子医大の太田和夫先生を紹介されたのです。地獄のような透析で、生き望みも失ったように私に、先生は女子医大に来るようにと再三お願い下さい

ました。兄は「太田先生を信じて自分を賭けてみたら」と励ましてくれました。

昭和四十六年の暮れ、女子医大で太田先生から内シャトルの手術を受けました。手術時間は四十五分でした。

生きる勇氣と希望を持つ

透析で人生観は変わって来ましたか。

高藤 退院後は失意のどん底でした。これから先、一日置きに透析をして生きてみたところで、一体何の意味があるのか、自問自答するばかりでした。

再生された命をいただいたのだからと受け止めて、勇氣と希望を持って、できるだけ明るく楽しく生きて行こうと割り切るようになるまでに三年位はかかったと思います。

太田先生の所へ転院のお話があった時、仲間には、一緒に女子医大へ行くこうと声をかけたのですが、皆、諦めていて、結局、私ひとり、今まで命を長らえていることに運命的な出会いを感じますね。

積極的に生きることを心に決め

運命的な出会いから 積極的に生きてきた

私は、運転免許も取り、ドライブに登山に、水泳に、花作りにとコマネズミの如く動き回りました。

透析も非常に順調にいった方だと思えます。昭和四十六年暮れ、太田先生に作っていただいた内シヤン

トは二十二年もついているんです。

透析のお蔭で本好きに

透析中は何をしていますか。

高藤 一時間程本を読み、あとは眠ったり、テレビや食事などですね。透析のお蔭で本が好きになりました。軽いものばかりですけれど……

——ご結婚は。

高藤 二十歳の時、子供は無理と医師に言われました。人並みに恋愛も何回かしました。結婚の話まで行ったこともありませんでしたが、子供ができないことで、先方の親の反対にあつたりで、結局つぶれてしまいました。——移植についてどうお考えですか。

高藤 いまは考えてい

ません。でも透析二十三年たつて、移植された方にお話しをうかがってみたいですね。(注)岡本曉さん・平成三年移植)今現在の移植の表情を知りたい気持ちもあります。

——患者会について。

高藤 私のところは今ありませんが、必要な存在ではないでしょうか。透析の現状とか将来について考えていかなければならないし、全く関知しない方にも理解していただくことが大切だと思います。

(インタビューを終えて)

高藤さん自身、「できるだけ守りの態勢にならないように、動いて、よく食べて、何か一つ自分流の楽しみを持つと良いかも知れませんがねとおっしゃっていますが、こういう言葉の中に高藤さんの人生哲学がはつきりうかがえます。自分の今までの苦労をさりと話し、明るく生きていくことを強調する高藤さんの姿に、透析生活の神髄を見た思いでした。私も随分教えられることの多かったインタビューでした。

(文・写真 小島)



ギターは手根管の防止になったと話す高藤さん

私の雑記帳

近くの区立植物園で彼岸花が綺麗に咲いている。秋になると枝だけキューと延びて真っ赤な花を咲かせる花。小さい頃、彼岸花は毒があるというので、とても気持ちが悪かった記憶がある。

気をつけていると、山手線の線路の脇にも咲いているのを発見する。秋を飾る風物の代表的存在だ



なあ、都会でもこうして「秋」を告げてくれるのだからと、親しみを感じた。だが、一見ばつと華やかにみえるが、なぜか物悲しくも感じてしまうのは私だけだろうか。

偶然、椎名誠著『新橋局森口青春篇』を読んでいたら、「まんじゅしやげこわい」と題する章でまんじゅしやげII彼岸花のことを話題にした物語が展開していた。

「まんじゅしやげはお墓に似合うのよね。あかくつて、せつなくてね——こんな会話の展開するところがあつた。小さい頃、彼岸花を見て気持ちが悪かつ

たというのは、私もお墓で見た記憶がずつと残っていたためかな、と思った。

高校生が脳死と移植問題を考える

「図書部で今度、脳死と臓器移植について他校と読書会を開くのだけど、なかなかいい資料がなくて加藤君、何か参考になるものないかなあ?」

母校の図書室の司書を今でもしているWさんから連絡を受けた。何しろ高校を卒業して二十年にもなるのに、電話を貰ったのは初めての出来事だったが、用件を聞いて納得した。Wさんは、私が患者運動をしているのを知っているからと連絡をしてきた、ということ

だった。早速、東腎協の事務局次長の草間さんに資料を用意して貰い郵送した。

そうして、そんなことがあったなんていうことも忘れた頃に小包が送られてきて、お礼の品物と生徒たちの手紙が入っていたのだ。手紙にはこう綴られていた。

(こんにちは)

この度は資料を送って頂きありがとうございます。お陰で随分と読書会の準備がはかどり、また内容的にも充実したと思います。他校との読書会というものは、今まで経験したことがなく、はじめは随分とまどいました。それに資料が思ったように集まらず大変困っていたので、加藤さんが送って下さった資料はとても役立ちました。

準備をしている間は何故「脳死&臓器移植」などというこんな難しい問題を選んでしまったのかと後悔しましたが、読書会を終えてみれば、不備な点も多々ありましたが、自分達なりによくできたと思います。

当日は思ったよりも参加者の発言が多く、いろいろな人の意見が聞け、また新しい考え方を知るこ

●脳死や臓器移植問題について、国民が納得できる論議を草の根から



奥武蔵・芦が久保で

とができて、大変勉強になりました。これを期に、このような難しく敬遠しがちな話題にも、もっと積極的に取り組んでいきたいと思っています。

本当に貴重な資料をありがとうございます。

93・6・14
中島 洋佳
中島 俊和
池田 結実
高田 光枝

手紙を読んで「脳死&臓器移植」について真剣に話し合っている高

校生の姿が目に見え、浮かぶようだった。脳死や臓器移植問題についての国民が納得できる合意は、こういう草の根の論議が大切だ、むしろこちらこそが「ありがとう」という立場にあるのかも知れないと思つたのだ。総括集が出来上がつたら送っていただけるそうなので、どんな話し合いがあったかは、またこの欄で紹介できると思う。

福祉の理念に危機を感じる

全腎協が発行している各紙新聞の綴じ込み「今月の情報」(八月分)の日経社説(8月13日付)を読んだ。『増え続ける医療費の根本対策を示せ』と題する社説は「国民皆保険」体制にしたから医療費が増加の一途をたどったこと、医療機関の機能分化を更に進めていくこと、入院時の食事など自宅にいて必要なものは保険の対象外とすべきを検討を要すること、老人医療費はかかり過ぎるので、早急に対策を講じる必要があること、など書かれていた。

この社説を読んでいると、まるで人間を物と同一視しているのさと思えなかった。経済効率一辺倒の論理で医療費も論じているよう

で親しみを感ぜさせなかった。

綴じ込みには、また「福祉の理念に危険な兆候が」と朝日新聞への投書欄を紹介していた。「日本社会は強者の論理をはぐくみやすく、弱者になりうる可能性が何人にもあることを忘れさせる。老病死が万人共通の終着であることを決して忘れてはならない」と題し、弱者切り捨てを毅然と批判していた。

医療費や高齢者の問題は、これからますます深刻な状況を迎えることは確か。だから病気になるつらじつくり治療に専念でき、高齢者が安心して生活できる社会に、これが国民の倫理として確立していく社会になることを望む。



機関誌「東腎協」は、この号で百号を迎える。季刊誌として定期発行してから年四回、一回も途絶えることなく発行していることは誇りを持っていいんじゃないかな。塵も積もれば山となる、と諺にもあるように東腎協の運動にもかなり貢献してきたのだが、いかに、と勝手に思っているのだが。。。

一九九三年 秋
(「東腎協」編集委員)

スタッフ訪問

⑦

(まとめ)

—よりよい透析を求めて—

今回はこのコーナーのテーマである「透析患者にとって良い病院とは」を、今までの取材を通して感じたことをもとに、まとめてみました。

透析技術の進歩と

新たな問題

人工透析は、昭和四十二年に健康保険の適用、昭和四十七年に身体障害者福祉法（児童福祉法）の対象になり更生医療（育成医療）が受けられるようになりました。

私たちの長年の患者運動の成果と比例し、患者の数も年々増加の一途です。現在全国で約十二万四千人（透析療法学会調査）が治療を受けています。

日常の社会生活の中でも透析の話しを聞くことは珍しくありません。テレビドラマや小説の中にま

で透析や腎臓移植の話が出てきます。そう言った意味でも人工透析が一般的な治療になってきたように思います。

当然、当時（昭和四十年代）と比較して、透析治療に対する患者の意識、スタッフの意識が変わってきたことは言うまでもありません。透析技術の進歩、透析施設（人工腎臓）の増加にともない当時のような、限られた人が受けられる特殊な治療という状況は無くなりました。

しかし、都内において透析施設の配置が必ずしも患者にととの適正配置になっていません。現に多摩地区では施設が不足し遠距離通院をされている人もいます。

また、島しょには透析施設が無く、透析をするため島を離れ東京や千葉・静岡などで生活をされている人がいます。



東腎協も実態を調査し、この問題に長年取り組んでいます。

都内でもこのような問題があることをもって多くの会員に知って欲しいと思います。

一方医療現場では、透析技術の進歩により長期透析治療が可能になり二十年以上透析をされている患者さんも珍しくありません。

以前は対象にはならなかった疾患（糖尿病やSLEなど）から透析へ導入する割合が年々高くなってきました。

昨年は、糖尿病からの導入が導入患者全体の二八％（透析療法学会調査）にもなりました。

また、患者の高齢化もすすんでいます。昨年度の透析患者全体の平均年齢は五十六歳、導入患者の平均年齢は五十九歳（いずれも透析療法学会調査）と毎年確実に高くなっています。

東京都腎臓病患者 連絡協議会

常任幹事

金子

智

このように技術の進歩により長期透析・透析適応範囲の拡大が可能になり、それに患者の高齢化が加わって透析患者の障害の重度化、重複化という新たな問題が出てきました。

◇長期入院施設の問題

◇通院の問題

◇リハビリテーションの問題

◇在宅治療の問題

特徴的なものを上げましたが、どの問題をとっても現時点ではなかなか有効な手段はありません。

これらの問題で共通して言えることは、医療機関や行政に訴えることも重要ですが、家族の理解と協力、ボランティアの積極的な参加など社会全体で考えていかなければならない問題だということです。毎年行っている「都民の集い」のように一般の人や医療関係者、学生などが参加できる集いはそ

いう意味で、今後ますます大切な運動の一つになってくるように思います。

医療サービスと

診療報酬

東腎協から透析食の保険外し、薬の一部自己負担などが検討されている診療報酬「改定」の反対署名運動をお願いしていますが、現在私たちが受けている医療（保険医療）は、すべて診療報酬によって医療費が決まります。

たとえば、透析の技術料が四時間千二百五十点、四時間以上千七百点、給食が六十三点（医療食加算十点）で一点が十円になります。この診療報酬にも少し難しい点があるように思います。

栄養士さんを取材した時の話で「冷凍された医療食を使えば比較的簡単に調理ができ、医療食加算も請求できます。しかし、患者さんにおいしい食事を食べてもらおうと新鮮な材料を使い院内で調理をした場合、医療食よりずっと手間がかかるにもかかわらず保険点数が低いのです。このような例は他にもあります。

透析の技術料で言えば、看護婦さんを多く配置し手厚い看護をしても、逆に少ない人数で充分な看護が出来なくても診療報酬上は、何時間透析を行ったかで診療報酬額が決まります。このように現在の診療報酬は、技術料を中心に算定されています。

ダイアライザーについても、現在は高分子膜のものやハイパフォーマンズダイアライザー等が多く使われていますが、どのような材質の膜を使ったダイアライザーでも、膜の面積と滅菌方法によって診療報酬が決まります。

個々の患者に合った手厚い看護を診療報酬の中で見ようとしても、診療報酬を算定する基準になる、診療報酬がありません。無形のサービスをどのように評価するか、この問題については結論が出そうにありません。

スタッフ

と患者の関係

透析治療の大きな特徴として、長期にわたる治療を継続していかなければならないことです。また、治療を継続していく中で自己管理

の占める割合が大変大きいことです。そのことで他の治療とは違った様々な問題点があります。

まず一般治療と違い、長年にわたり患者とスタッフが付き合っているといかなければならないことです。スタッフも治療の為に場合によってはかなり立ち入ったところまで関わらなければならないケースもあります。

そういう環境の中では、お互いに気配りや思いやりを持って接していくことが大切なことと多くの人は理解していると思います。

しかし、医療現場では看護婦不足や要介護患者の増加により、スタッフは勤務をこなし個々の患者に充分な時間がとれないのも事実です。そう言う環境の中で、患者とスタッフがトラブルをおこすケースも少なくありません。最悪の場合にはどちらかが辞めて行く場合もあります。残念なことです。

また、患者も長期に治療を受けるために、ある程度の医学的知識を持った人も少なくありません。また、現在のような情報社会では、患者は自分の病気について知る権利があると思います。

ただ、スタッフが患者に説明を

する場合どこまで話せばいいのか、最終的な決定について患者の希望をどこまで受け入れられるか、日頃インホームド・コンセントという言葉が頻りに使われていますが、医療現場では、充分な説明とそのことを患者が理解して納得しているかという必ずしもそうではないように思います。

より良い医療を

めざして

取材をとおして感じたことをまとめて見ましたが、どの問題をとってみても、一業には答えは出ません。

ありふれた言葉かもしれませんが、お互いに尊重し合い信頼関係がなければならぬことです。

また、患者もすべてスタッフ・病院まかせではなく、もっと透析に関心を持って欲しいことです。

例えば、自分としては大変良い治療を受けているつもりでも、他の施設の話聞いてみたらそうではなかったというケースもあります。もっと広い視野で、そして情報には敏感になって欲しいと思います。

透析ベッド25床を確保

都立大久保病院が開院

重点医療として腎医療も

都立大久保病院が改築され、七月三十日の開院を控えた七月二十二日、東腎協では見学会を実施し、泉山会長を始め十人が参加しました。

重点医療として①健康作り関連

医療②リハビリテーション医療③救急医療(二次救急医療)とともに④腎医療も取り上げられ、診療科に都立病院唯一の「腎内科」が設置されました。診療は地域医療機関からの紹介予約制となっていて、透析患者については新規導入患者、重症・合併症患者への治療が目的となっています。

腎不全センターは

東腎協の要望として実現

都立大久保病院は腎医療関係では一九七二(昭和四十七)年に透析センター、四年後に腎不全センターが竣工されました。この腎不全センター構想の設定に際し、東腎協では大久保病院と何回も折衝をもち要望として実現しました。



病院と衛生局と東腎協の話し合い

一九八七年八月から大久保病院は改築に入り、都立駒込病院が腎不全センターとして透析ベッド十九床で稼働していました。改築になった腎センターには東腎協の粘り強い運動で、透析ベッド二十五床、入院ベッド三十床を確保し、駒込病院にも透析ベッドを五床残すことが出来ました。二十五台の透析機は個人用の三台を含めすべて新型のものでした。



最新の透析機の説明をする福田先生(左)



広々としたリハビリ室、さっそく訓練

腎臓病患者のリハビリ施設

Ｔは呼吸により狂わないように息止めが一回で撮影できるものでした。

最後の懇談会で福田先生は、「こういう新型の機器を使ってもらわないように、蛋白の出た段階で通院してもらい治していくことが必要である」と早期発見・早期治療の重要性を強調していました。

看護宿舎	18
看護宿舎	17
看護宿舎 保育室	16
15階病棟	15
14階病棟	14
13階病棟	13
12階病棟	12
11階病棟 ICU・PICU	11
10階病棟	10
9階病棟 人工透析室	9
院長室、庶務課、医局	8
リハビリテーション部門、中央器材室	7
手術室、中央材料室	6
検体検査室、病歴室、職員食堂	5
中央採血室、生理検査室、X線検査室、MRI	4
外来診療部門、看護相談室	3
総合案内、医事課、薬剤科、救急外来、医事相談室	1
栄養科、RⅠ検査室、ライナック	B1
中央倉庫、薬品倉庫、調剤室、霊安室	B2
健康プラザ駐車場	B3
RⅠ処理室、排水処理室、電気室	B4

多摩南部地域病院も

7月26日に開院

平成二年九月から建設を進めていました財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院が開院しました。

なお、財団法人東京都保健医療公社が運営する地域病院は、平成二年七月に開設した東部地域病院について二カ所目の施設となります。

◎所在地 東京都多摩市落合

四〇〇六番地

阻〇四二三(三八)五一

(代表)

◎最寄駅 京王線又は小田急

線多摩センター駅

下車十五分

○病院の基本的機能

多摩南部地域（八王子、町田、日野、多摩及び稲城の五市）に不足している医療を提供するとともに、地域の医療機関と有機的な連携のもと、主として二次医療を実施する地域の中核病院として機能するもの。

多摩南部地域病院も

7月26日に開院

平成二年九月から建設を進めていました財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院が開院しました。

なお、財団法人東京都保健医療公社が運営する地域病院は、平成二年七月に開設した東部地域病院について二カ所目の施設となります。

◎所在地 東京都多摩市落合

四〇〇六番地

阻〇四二三(三八)五一

(代表)

◎最寄駅 京王線又は小田急

線多摩センター駅

下車十五分

○病院の基本的機能

多摩南部地域（八王子、町田、日野、多摩及び稲城の五市）に不足している医療を提供するとともに、地域の医療機関と有機的な連携のもと、主として二次医療を実施する地域の中核病院として機能するもの。

特集2

透析生活と地域活動

全腎協が腎友会づくり研修会

八月二十八日(土)～二十九日(日)、戸山サンライズ大研修室にて全腎協腎友会づくり研修会が行われた。本年四月一日から福祉八法改正にともない福祉行政の基礎が市町村に移譲されたことよって、市町村の運動の必要性がこれまで以上に高まってきている。研修会は「福祉八法改正とこれからの福祉」講師、岡田大造氏(厚生省社会援護局更生課長補佐)の講義で始められた。

腎臓病も法の対象に

現在の身体障害者福祉法が施行されたのは昭和二十五年四月一日のこと。昭和二十九年の改正では更生医療の制度化、昭和四十七年の改正では腎臓の機能障害が法の対象となった。

昭和五十九年の改正では国際障



全国各地から「腎友会づくり研修会」に

害者年のテーマである(完全参加と平等)障害者の福祉の理念を踏まえての趣旨が法にもり込まれた。今後の社会福祉のあり方についてとする人生八十年時代にふさわしい福祉社会の一層の充実

を図るとともに、福祉サービスの一般化と利用者の選択の幅の広さ等に留意している。かつ、市町村役割重視と在宅福祉の充実、民間福祉サービスの健全育成、更生援護施設等への入所事務の町村への移譲など市町村の役割は重視される様である。

在宅福祉サービス追加と社会福祉事業の範囲見直しと厚生省ではいうがなかなか裏が見えてならない。それは何かしら?改正の趣旨としては二十一世紀を障害者も、障害のない人も共に明るく暮らす豊かな福祉社会とするが、政治家の選挙運動の様でなにか、こそこそい。在宅における福祉サービス、介護等の措置が改正の中心である。市町村はこれらの措置、その他地域の実情にこたえ積極的な実施に努めることというが、私はあえて裏をかえせば市町村が国の権力を代弁して監視すると思えてならない。

入所となると、総合的障害者施設、老人病院、養護老人ホーム、いろいろあるがなかなか入所出来ないとのことである。区市町村が在宅における介護等の措置に関する費用は国はその1/2以内を都

東腎協と地域活動

会員の住居の把握

東京においては、東京都の福祉対策以外に従来より、福祉タクシーなどに代表される区市町村の独自事業が一部で実施されていた。東腎協はこれに対応する地域活動の必要性を認識し、昭和五十年前半から区市町村の組織化を課題としてきました。

しかし、限られた活動状況の中で、具体的な取組みにはなかなか到りませんでした。昭和五十七年、区市町村別の組織化に向け、全会員の名簿の作成に取り組みました。

渋谷区交流会の発足

昭和五十九年、東腎協として初めて地域患者会として、区への福祉対策などの要請陳情活動を将来的目標に「東腎協渋谷区交流会」が結成されました。昭和六十年には、「板橋区腎臓病友の会」が発足し、また、江東区でも会発足に向けて準備がはじまりました。しかし、こうした活動の実際か

道府県はその1/4以内を補助するところがあるが、がすなり進むのだろうか？

うちの近所にいる無筋力質の息子さんを持つ歳離れた母親は入退院をくりかえしている、親子。老人ホームか老人病院へと助言すれば福祉事務所にくのぐいやだとのことで、どうしても聞けばなんだかんだとむずかしくてという。

改正の内容

今回の改正により都道府県から市町村に移譲された事務。身体に障害のある者の発見、相談。医療機関の紹介、公共職業安定所への紹介。身体障害者更生援護施設への入所決定。更生訓練費の支給。ショートステイの決定、更生医療の給付等が町村に移譲、

一、身体障害者手帳の交付事務
二、更生医療の担当医療機関指定
三、特別障害者手当等の支給事務
の三項目は都道府県と、ホームヘルパー、デイサービス事業は従来どおりの町村の事務と市町村は身体障害者が心身の状況等に応じて適切な処置が受けられるよう。在宅における介護等の措置及び身体障害者、更生援護施設への入所等

の措置の総合的な実施に努めることとされたこと。

福祉八法改正をふまえて、問題提起「市町村腎友会づくりのため」に」と題して全腎協長谷川政策部長の話に入った。これまで東京都の腎友会は病院患者会、東腎協、全腎協とそれぞれ国と都に対応してきたが、今後は区、市、町が交渉相手になるのにはそれなりの地域組織があれば交渉が来ないと思いますがいかがでしょうか？

区単位の腎友会づくりを2例紹介

5年目を迎える

「江東腎臓病を考える会」

生い立ち

今から四年前の一九八九年十月、江東区の保健所主催による「腎臓病の講演会」が開かれました。

その参加者を中心に何回かの交流会が持たれましたが「昼間は参加できない」「透析日以外の日に参加できる機会を」など多くの声が出され、東腎協のご協力を得ながら「会」を作ることになりました。

江東腎臓病を考える会（通称「江腎会」）一九九〇年三月十八日の

それも、しかりと東腎協に直結した組織であってほしいと今、東腎協では五ブロックで交流会をやっているがいかがなんでしょう？

江戸川区、江東区と区患者会ができていて……。各県でも切実な問題として患者の実態や地域の実情により、問題も様々あり、私自身大変に難しい問題であると思っている。以上第一日の研修を終わった。（北爪 勇）

結成です。いま考えるとナント大それた名前かと思いますが、お陰で透析者ばかりでなく腎臓病といわれた人、長期に通院をしている人など多くの参加を得ているところ。現在の会員は七十名です。

何をやっているの……？

「会」は交流会を中心に毎月第三日曜日午後例会を行ってあります。特に新しく透析に入った人から病気の悩み・透析への不安・家族の気遣いなどが必ず出されます。そこでは例会での経験交流が一つの励みしとなっています。

ら、いくつかの困難な問題が出てきました。一番大きな問題は、東腎協が病院単位の患者会から組織されているという点で、東京圏と

いう広い生活圏の中で、同じ透析施設に通う人も様々な住居地から通っています。勤務地に近い透析施設に通って、住居は他の区市という会員も多く見られ、病院患者会を基礎とした地域組織が作りにくいという状況があります。

二つ目に人の問題で、活動家不足から会の運営が難しかったということがあります。

三つ目に財政問題がありました。当面は案内状の郵送費や会場費を東腎協から支出するとしても、将来市区町村組織が沢山できた場合、その財政をどのよう支えていくのか、という問題もありました。

東腎協のブロック化

このようなことから、東腎協では地域活動の在り方を常任幹事会などで検討した結果、東腎協をブロック化する事で地域活動に対応することになりました。

ブロック化は、昭和六十二年度から実施に移され、その内容は都

その他料理講習会、ハイキング、学習会など行っていますが、会主催と保健所主催の腎臓病に関する講演会を年二回行っています。

いま 区内では……?

今江東区内には透析室が一家所しかありません。透析者四〇〇名が居るといわれている中、「住んでいる近くにどうしても透析室を」がみんなの願いです。もう一つは、透析者の高齢化と長期透析による合併症等で出歩けなくなり、例会の参加ができない人が多くなっています。

これからは……?

最初例会でも「患者会ってなんだろう」と話してました。「病院の患者会」と「地域の患者会」の関係・違いは、など・……。『会』は、安心して生活できるように地域に密着した独自性のある・患者のための患者会をめざそう、と例会は毎月かならず開く・ニュースは毎月発行する事を決め、「継続は力なり」を合い言葉にこれからも頑張っていくと想っているところです。

(佐幸正巳)

結成なった

「江戸川腎友さつき会」

江戸川腎友さつき会は各病院患者会(五病院)の総意を持って平成四年五月三十一日に結成されました。東腎協の指導、支援を受け、一年四カ月、発足趣旨の柱として五十七万人余の区民在住の中、江戸川区には総合病院もなく緊急時たらい回しされない様な病院が欲しい。現在、六六八人いる江戸川区在住透析者の半数以上が他地区で透析を受けていて、この現状を区行政に訴え腎臓病を幅広く区民に認識していただき、予備軍を増やさないなどです。

そのために都と同じ形で腎キャンペーンを開催しています。江戸川区長さんも病院誘致は念願であり、議会でも論議されています。しかし、土地問題が「ネック」の様であります。

このような状況の中、専門医の腎炎、透析にまつわる講演、江戸川区福祉行政のお話を聞くこと、又、腎で悩む人、透析間近の人、家庭、職場等の悩みを訴えられる声を聞くために患者同志の経験交流会を開催しています。このきた

んのない話し合いをまとめ区の健康部に報告し、行政に生かしていただくようにお願いしています。江戸川区長さんも透析患者の実態を認識しておられ、面会の折、全面的に江戸川腎友さつき会をバックアップするという心強いお言葉をいただいております。

これからも一歩一歩福祉医療後退のなき生活が送れることを念じ、会活動を取り組みたい。しかし、言うは易しで壁にぶつかることもしばしば、ボタンの掛け違い、押し違いで役員会でもテーマをたたかればかりの激論もあるが、目的は一つであり、良い結果を生み出します。その都度東腎協の指導を受けてきました。

幸いに私ども役員の中にはスタンドブレイをできるものもなく、これから大きく成長する江戸川腎友さつき会であろうことを念じ、確信をしているところです。

追伸

来年度より区主催の内部障害者教室を開催。患者会親睦バス代助成支給。会運営の助成金について各党派に請願行動。地震水害等緊急時の対応を江戸川区へ請願。

(会長・森田廣明)

内を区中央部、区南部、区東部、区北部、多摩部の五ブロックにわけて、病院間の交流や各患者会を活性化させていこうというものでした。

今日、このブロック化は東腎協活動の中に定着し、毎年大きな成果を得ています。平成五年九月現在までに各ブロックの会合は五千七百人を超えています。

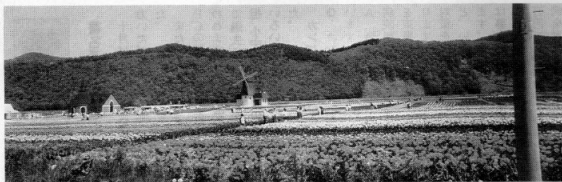
今後の地域活動

最近、二つの区で新たな動きがあります。一つは江東腎臓病を考える会の活動であり、もう一つは、江戸川腎友さつき会の結成です。

これらの組織は東腎協の直接の組織ではありませんが、地域の東腎協会員あるいは役員が中心となつて結成・運営されています。

今後の課題としては、東腎協としてこのような会とどのようにかわっていくのか、また、各ブロックにおいては、区市町村に対する要請陳情活動への取組み等について検討していくことが必要です。

(事務局長・森義昭)



こんな大地で生まれ育った岩本さんがうらやましい

私のふるさと

⑧

北海道紋別郡上湧別町



あけぼの友の会 岩本美津枝

道北の玄関口、女満別空港に降りると、右手に見え隠れする「網走湖」や「能取湖」「佐呂間湖」その向うは「オホーツク海」と横目に、車で一時間、やがて左手に五景山の名で親しまれている小高い山が目にはいる、ここは古くから桜の名勝、北の遅い春五月上旬漸くはころび始めるのです。全山

ピンク色に染まると待つてましたとばかり、老若男女が繰り出し花見の宴で賑わうのです。私にもチヨビ青春の思い出が脳裏をよぎります！

ここを東の入り口として東西十キロ、南北二十キロに広がる田園地帯が、郷里の地、上湧別町になるのです。以前は北海道有数の農産物の宝庫で、水稻栽培を始めたとして、「馬鈴薯」「甜菜ピート」「麦」「大豆」「小豆」と多彩な作物が収穫されてい

ました。また何より名産「リマング」はこの町の大半をしめていたものです。地面にしっかりと根をはった大樹が道路を覆うように枝を広げ、雪解けの春を待ちきれんと、可憐な花を咲かせ、秋風の吹く頃には枝も折れんばかりに真赤な実を付け、甘酸っぱい薫りを

一面に漂わせていたのです。

そんな光景も今は跡形もなく、一帯が黒土の大地と変わり、北海道を代表する「アスパラ」「玉葱」の産地に様変わりしています。中心部には今や日本一を誇るチュウリツブ園が広がっているのです。

広さ五十町歩（一万五千坪）を有し、ひととき目立つ風車をメインに五月下旬に百万本の花を見事に咲かせ、青空の下で波うっているのです。どこかオランダを思わせる風景は、オホーツクへと訪れる観光客の足を止めずにはいられない場所として賑わっています。

西の山が日ごとに色付き始める頃、龍を流れる湧別川には「シヤケ」が産卵のため登ってくるのです。隣に道内屈指の「水産庁シヤケ・マス孵化場」があり、職員だけでは手の足りない最盛期には、よく検卵作業に携り出されたのが思いだされます。検卵後の死卵は正油漬にしてあつあつのご飯にのせて食べる今で言う「イクラどんぶり」でしょうか、大変美味しかったものです。

そんなふる里は、二十六年過ぎた私を、今も温かく迎えてくれるのです。

事務局から

署名運動にご協力を

十月はJPCの緊急署名にご協力いただきありがとうございます。

また、十一月からは全腎協、JPCの国会請願署名募金運動が行われます。この国会請願運動などで過去に人工透析医療費公費負担、小中学生の検尿の義務化など、いろいろな施策を実現してきました。

カンパについてQ&A

Q カンパはどのように使われていますか

A 皆様から集められたカンパは病院患者会で四〇%をとり六〇%を東腎協に納入していただいております。各患者会では腎疾患総合対策を実現するための会の活動など、いろいろな方法で使われています。東腎協に納入されたカンパは募金配分により全腎協、JPCに納入し、残金(昨年度約二五五万円)を特別会計に計上し、腎臓病を考える会民の集い、腎移植推進

進キャンペーンなどの腎疾患総合対策を実現するための行事、行動などに使われています。全腎協、JPCでは国会請願要請集会への全国の参加者の旅費、署名用紙の印刷などに当てています。

Q カンパは強制ですか

A カンパについては会員の皆様が集められる範囲で納入してもらうことになっており、強制ではありません。しかし、要請実現のためできるだけ多くの皆様のご理解、ご協力いただくとくようお願いしております。

腎臓病

無料医療相談会

東京難病団体連絡協議会(東難連)では、都内の難病患者のために医療相談会を開いています。慢性腎炎、ネフロローゼ等の患者のための「腎臓病無料医療相談会」を左記のとおり行います。

記

日時 十一月二十一日(日)

十一時より

会場 東京都障害者福祉会館 相談室 福田裕幹先生ほか三先生(都立大久保病院腎内科部長)

予約で受けつけを行っています

ので、受診希望者は東腎協事務局(三九八五・七九九〇)まで

「難病を考える集い」開催のお知らせ

○日時 11月7日(日)

午後1時30分～3時30分

○場所

戸山サンライズ「大研修室」

○講演(より豊かに生きる)

講師 上智大学教授

アルフونس・デーケ先生

全国難病団体連絡協議会

(全難連)では、「死の哲学」

の提唱者として活躍中の上智

大学のアルフونس・デーケ

ン教授をお招きし、右の講演

会を開催します。どうぞおさ

そいあわせの上にご参加下さ

い。

参加希望者は東腎協事務局

(三九八五・七九九〇)まで

全腎協が

ブックレット発行

全腎協ではシンポジウムの報告集、「脳死と移植と患者とー法制化を考えるー、要介護問題を考えるー透析患者の明日ー」を発行

しました。講読を希望される方は東腎協事務局まで連絡下さい。

新入会員紹介

よろしく

田中秀美、広木志津子、望月みさお、根本カヅ子、木本幸子、作道千鶴子、与五沢衣代、関根久子、行田美佐夫、佐藤房子、庄司スマチ村和子、勝田発身、宮部喜代枝、湧澄光子、田村ツルエ、大溝直子、伊藤光子、丹野千江子、常慶品子、五十嵐キヨエ、尾又千絵、館山ミヤ、後藤清高、高橋伊知郎、鈴木雄二、木村正、大石勝彦、森川祐二、水村洋子、尾山キク、立石寿意

国分寺こやま腎友会(45人)

〒185 国分寺市本町2-2-14

セントクオイクビル6F

こやまクリニック内

〈編集後記〉

青年部の名簿づくり、会員交流会の準備、腎キャンペーンの準備と事務局は足の踏み場もない中で編集を終えた。でも楽しいアフターファイブが待っている。次号、一〇一号は記念号、お楽しみに。(草間)